福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025年 3月 15日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 154-0004

所在地 東京都世田谷区太子堂1-12-27 コンフォートテラス1005号

評価機関名 合同会社フェアリンク

認証評価機関番号

機構 12 - 213

電話番号 03-6379-1449

代表者氏名 井上 浩之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	井上 浩之	福祉、経営	H0201050
	②	湊 岳美	福祉	H0801018
	③	田鹿 勉	経営	H1301026
	④			
	⑤			
福祉サービス種別	障害児多機能型事業所			☐ 食事を対象にする
評価対象事業所名称	KIZUNA柴崎駅前			指定番号 1354200444
事業所連絡先	〒	182-0007		
	所在地	東京都調布市菊野台1-5-1 倉田ビル2F		
	TEL	042-444-0045		
事業所代表者氏名	阿部 美希			
契約日	2024年 10月 1日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024年 10月 12日			
利用者調査結果報告日	2024年 12月 4日			
自己評価の調査票配付日	2024年 10月 1日			
自己評価結果報告日	2024年 11月 22日			
訪問調査日	2024年 12月 6日			
評価合議日	2024年 12月 27日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査の一環として、担当評価者が一定時間、事業所に滞在し、実際のサービス提供場面における子どもの室内活動の様子等の観察をおこなった。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025年 3月 14日

事業者代表者氏名 代表理事 青木 伸二郎

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)「運動」×「療育」で子ども達の眠っている可能性を広げていきたい(理念) 2)小さなことでも誠意をもって真摯に取り組める人間になろう(行動規範) 3)企業の利益だけを優先するのではなく、社会の必要性を判断し行動しよう(行動規範) 4)上司に従順であるのではなく、物事の真実、正しいものを見極め行動しよう(行動規範) 5)「ありがとう」の言葉とともに、たくさんの人々を笑顔にしていこう(ミッション)</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素直であること ・ポジティブであること ・勉強熱心であること ・感謝の気持ちを持つこと ・チームでの役割を認識し、人の嫌がる仕事、地味な仕事こそ、積極的に行えること ・否定的な発言は避け、肯定的な発言、考え方を持ってチームに貢献すること <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>私たちは、これからたくさんの人にお会いしていきます。私たちが大切にするのは、相手の立場に立って思いやる気持ち、一人ひとりができることを精いっぱい行い、そして自分の行動に責任をもち、相手を勇気づけてあげること。いつか「ありがとう」の言葉とともに、たくさんの人々を笑顔にしていこうことが、私たちの使命であると考えています。</p>

調査対象

調査開始時点での登録者のうち、利用実績のある保護者全員。ただし対象は世帯とし、複数の子どもが通っている場合は年齢が最も低い子どもに対するサービスについて回答を求めた。

調査方法

書面による無記名式のアンケート調査を実施。共通評価項目に対し「はい」「どちらとも言えない」「いいえ」「非該当・わからない」の4つの選択肢を用意。依頼状、調査票及び専用の返信用封筒を事業所経由で保護者に郵送し、記入後、評価機関に直接返送してもらった。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)

30
22

共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
22		22
19		19
86.4	0.0	86.4

利用者調査全体のコメント

・共通評価項目全体で「はい」の回答の割合が約81%に達している。中でも問1(子どもの身体機能・健康の増進)、問5(事業所との情報共有)、問8(職員の接遇)、問13(個別支援計画作成時の要望把握)では、回答者のうち、それぞれ1人を除く全員が「はい」を選択している。一方、「どちらとも言えない」と「いいえ」の回答を合わせた割合が最も高かったのは問6(家族の精神的サポート)で、約21%に上っている。また、問10(子ども同士のトラブルへの対応)では「非該当・わからない」の回答割合が約37%を占めており、自由記述に「トラブルの経験がない」といったコメントが複数寄せられている。

・共通評価項目に加え、総合的な満足度を5段階の選択肢を示して尋ねたところ、最上位の「大変満足」が19人中9人、以下、「満足」が8人、「どちらとも言えない」が1人で、「不満」「大変不満」の回答はなかった。

・利用者調査の一環として、事業所内における実際の療育の場面観察を実施した。担当評価者2名で1時間枠の1コマを観察した。予定された運動療法を中心としたプログラムに沿って、子どもが楽しみながら思い切り体を動かしている姿を確認することができた。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 事業所に通うことが、子どもの身体の機能や健康の維持・促進の役に立っているか	18	1	0	0
実際のアンケート調査票の質問文(以下、Q): 事業所に通うことが、お子さんの身体機能や健康状態に良い影響を与えていると思いますか				
2. 事業所での活動は、子どもが興味や関心を持てるものになっているか	17	2	0	0
Q: 事業所での活動は、お父さんが興味や関心を持てるものになっていると思いますか				

3. 事業所に通うことが、子どもの情緒面での発達(感情のコントロールを身につける等)の役に立っているか	14	3	0	2
Q: 事業所に通うことが、お子さんの情緒面での発達(感情のコントロールを身につける等)の役に立っていると思いますか				
4. 事業所に通うことで、子どもに社会性(人と人との関わり合いやルール等)が身についているか	16	2	0	1
Q: 事業所に通うことで、お子さんに社会性(人と人との関わり合いやルール等)が身についてきたと思いますか				
5. 子どもの様子や支援内容(体調変化時の対応含む)について、事業所と情報共有できているか	18	1	0	0
Q: お子さんの様子や、支援の内容(体調変化時の対応含む)について、事業所と情報共有ができていますか				
6. 家族に対する精神的なサポート(子育てに関する悩み相談や進路相談、家族間交流の機会の提供等)は役に立っているか	10	3	1	5
Q: ご家族に対する精神的なサポート(子育てに関する悩みや進路の相談、家族間交流の機会の提供等)は役に立っていると思いますか				
7. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	17	2	0	0
Q: 事業所の生活スペースは清潔で整理された空間になっていると思いますか				
8. 職員の接遇・態度は適切か	18	0	1	0
Q: 職員の言葉遣いや態度、身だしなみなどは適切だと思いますか(職員としてふさわしいと思いますか)				
9. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	12	2	0	5
Q: お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの職員の対応は信頼できますか				

10. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	11	1	0	7
Q: 子ども同士のトラブルやいじめ等があった場合の職員の対応は信頼できますか				
11. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	17	1	1	0
Q: 職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか				
12. 子どものプライバシーは守られているか	15	1	0	3
Q: お子さんやご家族のプライバシー(他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと)を職員は守ってくれていると思いますか				
13. 個別の計画作成時に、子どもや家族の状況や要望を聞かれているか	18	0	0	1
Q: お子さんの支援に関する計画作成したり見直しをする際に、事業所はお子さんやご家族の状況や要望を聞いてくれますか				
14. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	17	2	0	0
Q: お子さんに対する支援の計画やサービス内容など、事業所での生活についての職員の説明は、わかりやすいと思いますか				
15. 利用者の不満や要望は対応されているか	17	0	0	2
Q: 事業所に対して不満に思ったことや要望を伝えたと、職員はきちんと対応してくれていると思いますか				
16. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	12	1	1	5
Q: 事業所の利用に関して何か困ったことがあったときに、外部の窓口(役所や第三者委員など)にも相談できることを職員はわかりやすく伝えてくれましたか				

調査対象

対象は調査開始時点の登録者のうち利用実績のある利用者全員。回答者(回答方法)の内訳は、利用者の家族が本人の気持ちを推察して回答した割合が約5割で最も多く、次いで利用者本人が自分で、または家族と相談しながら回答した割合がそれぞれ2割となっている。

調査方法

事業所との協議により、書面による無記名式のアンケート調査を実施した。アンケートでは、依頼状、調査票及び専用の返信用封筒を事業所経由で保護者に配付し、記入後、評価機関に直接返送してもらった。

利用者総数

57

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
51		51
35		35
61.4	0.0	61.4

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

共通評価項目全体で「はい」の回答の割合が約83%に達している。中でも、問1(興味の持てる活動内容)、問3(相談対応)、問4(共有スペースの清潔・整頓)、問5(職員の接遇)、問8(子どもの気持ちの尊重)では、回答者の9割以上が「はい」と回答している。一方、「どちらとも言えない」と「いいえ」の回答を合わせた割合が最も高かったのは問13(外部の苦情相談窓口の案内)で約29%、次いで問11(支援内容の説明)の約17%となっている。問13では「非該当・わからない」の回答割合も約23%と最も高くなっている。

・共通評価項目に加え、総合的な満足度を5段階の選択肢を示して尋ねたところ、最上位の「とても良い」の割合が約83%、以下、「少し良い」が約14%、「どちらとも言えない」、「あまり良くない」、「ぜんぜん良くない」の回答はなかった。

・利用者調査の一環として、事業所内における実際の療育の場面観察を実施した。担当評価者2名で1時間枠の1コマを観察した。予定された運動療法を中心としたプログラムに沿って、子どもが楽しみながら思い切り体を動かしている姿を確認することができた。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 事業所での活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	34	1	0	0
アンケート調査票の質問文(実際は漢字にふりがなを付している。以下、Qと表記)：「KIZUNA柴崎駅前」でのかつどうやあそびは、おもしろいですか(自分に合っていると思いますか)				
2. 事業所での仲間との関わりは楽しいか	28	5	0	2
Q：「KIZUNA柴崎駅前」で、ほかの利用者といっしょに過ごす時間は楽しいですか				

3. 職員は、話し相手や、相談相手になってくれるか	34	1	0	0
Q:職員はあなたに話しかけたり、あなたの相談にのってくれたりしますか				
4. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	32	2	0	1
Q:「KIZUNA柴崎駅前」では、食事をする場所やトイレなどはいつもきれいで、かたづいていると思いますか				
5. 職員の接遇・態度は適切か	33	2	0	0
Q:職員のことばづかいやたいど、身だしなみなどは、きちんとしていると思いますか				
6. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	31	2	0	2
Q:あなたがけがをしたり、病気などでぐあいが悪くなったときに、職員に安心してまかせることができますか				
7. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	29	3	0	3
Q:ほかの利用者との間のけんかや、子ども同士のいじめなどがあつた場合、職員はきちんとかいつつしてくれると思いますか				
8. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	34	1	0	0
Q:あなたは、職員があなたの気持ちを大切にしてくれていると思いますか				
9. 子どものプライバシーは守られているか	26	2	0	7
Q:あなたがほかの人に知られたくないひみつのことを職員はいいしよにしてくれていると思いますか				

10. 個別の計画作成時に、子どもや家族の状況や要望を聞かれているか	30	1	0	4
Q:「KIZUNA柴崎駅前」での生活で、あなたが目標とすることを決めるときに、職員はあなたの気持ちや要望を聞いてくれますか				
11. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	26	5	1	3
Q:職員は、あなたに対して、どのような支援や手助けをしてくれるのか、わかりやすく説明してくれましたか				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	30	4	0	1
Q:あなたが「もっとこういうふうにしてほしい」とか、「こういうことはいやだから、やめてほしい」と思ったことを職員に伝えたときに、職員はあなたの話をきちんと聞いて、考えてくれると思いますか				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	17	6	4	8
Q:「KIZUNA柴崎駅前」のことで何かこまったことがあったときに、職員以外の人(役所や外部の相談係の人など)にも話しができることをわかりやすく教えてくれましたか				

I 組織マネジメント項目 (カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目		
1	カテゴリー1		
	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリー1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当	
●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当	
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当	
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当	
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当	
カテゴリー1の講評			
<p>経営層のリーダーシップのもと利用者のニーズ等に対応しながら事業を着実に広げている</p> <p>「運動療育を通じて子供たちの眠っている可能性を広げてあげたい」という法人理念のもと、子どもの年齢や支援ニーズに応じた小人数のクラスを編成し、1コマ1時間の枠で運動療法を軸とした療育を展開している。経営層による迅速な判断により、利用者の要望に応じて土曜・日曜の営業を開始したり、子どもが楽しんで通うことのできるサービスの工夫や理学療法士等の専門職を配置するなど、特徴を生かす形でサービスの強みを形成している。一つのビジネスモデルを確立しながら、法制度の改正にも対応し、事業を着実に広げている。</p> <p>法人全体のコンプライアンスに関わる取り組みの方針や実施状況の確認をおこなっている</p> <p>2023年3月に法人が運営する同形態の事業所が1つ増え、現在は都内に4か所の教室を展開している。法人として、行政を含む関係機関に対する説明責任を重視し、法人代表者と各拠点の管理者・児童発達支援管理責任者等によるオンラインの会議を開いて、法人全体のコンプライアンスに関わる取り組みの方針や実施状況の確認をおこなっている。事業所内の職員に対する重要な決定事項の周知の方法としては、経営層からの日常的な電子メールの発信が中心となっている。職員による自己評価の結果から、全体への周知が図られている様子がうかがえる。</p> <p>利用開始後はSNS等を通じて保護者に対する重要事項等の説明を随時おこなっている</p> <p>利用者及び保護者に対する重要事項等の説明は利用開始時に対面で実施している他、その後はSNS等を通じて随時、タイムリーにおこなっている。法人内の他事業所では保護者会を開催し、療育のねらい等について職員が保護者に直接説明する取り組みをおこなっているところもある。今年度より国のガイドラインが全面改定される中、本人支援の基本方針や、家族支援、移行支援、地域支援等の展開に向けての考え方を支援プログラムをベースに利用者・保護者に説明する機会を設けることも重要と考えられ、今後の検討が期待される。</p>			

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○●●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
○あり ●なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>事業の安定的な継続に向けた数値目標を設定し、その実現に組織的に取り組んでいる</p> <p>毎年の実施と結果の公表が義務付けられている自己評価について、保護者に対するアンケート調査と職員による自己評価の集計結果を法人のホームページに掲載している。保護者の意見を踏まえた対応と併せ、職員の振り返りから抽出した課題に対する取り組みの目標等が記載されており、改善に向けた事業所の姿勢が伺える。また、事業を安定的に継続していくための数値目標を経営層が設定し、職員に明示している。毎月、指標の推移を事業所にフィードバックしながら、目標達成に向けた組織的な取り組みの推進を図っている。</p> <p>中長期的な経営目標の実現に向けた事業計画の連鎖のサイクルを確立することが望まれる</p> <p>今年度は報酬改定によるサービス内容の見直しや新たな加算取得に向けた人員体制の整備、業務ソフトの導入などの経営方針と各事業所の数値目標が掲げられている。今後、国が定めるガイドラインに示された障害児支援の基本理念等も踏まえながら、事業の安定的な継続を図るうえで重要となる中長期的な目標を設定し、その実現に向けた計画を作成するとともに、それを単年度の事業計画に展開し、その実施状況を基となる計画の見直しにつなげるサイクルを確立することが望まれる。</p>		

3 経営における社会的責任		
カテゴリ-3		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(○●)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
○あり ●なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(○○●)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
○あり ●なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-3の講評		
<p>職員として守るべき倫理や行動指針を明示し、研修や会議を通じて周知を図っている</p> <p>新任研修に際し、テキストを用いて、事業所としての支援のあり方や発達障害の理解と関わり方、行動指針等を説明し、福祉従事者として守るべき事柄を説明している。また、虐待防止の取り組みとして、全職員に向けての権利擁護研修の実施に加えて、メンタル・虐待防止セルフチェックを年1回義務付けるなど、組織的な取り組みが行われている。子どもに対する身体拘束や虐待に関するグレーゾーンについても法人の虐待防止委員会を通じて職員間の話し合いの機会を設け、意識の啓発につなげている。</p> <p>子どもの健全な発達や最善の福祉を支える関係機関のネットワークへの参画が期待される</p> <p>地元自治体が年数回開催する事業者連絡会に職員が参加し、地域の状況等に関する情報の提供を受けている。今後は、国のガイドラインに示されたライフステージに応じた関係機関との連携や地域の要保護児童を見守るネットワーク等において、子どもの健全な発達や最善の福祉を共に支える体制を構築していくことが期待される。そのためにも、まずは子どもの主な所属先である学校や保育所、幼稚園等と担当者間で相互に顔の見える関係を構築する取り組み等から検討を始めることが望まれる。</p>		

4			リスクマネジメント			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況			4/5		
評価項目1			事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況			4/5		
事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる			標準項目			標準項目			評点(○○○○●)		
評価			標準項目			標準項目			標準項目		
●あり ○なし			1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている			○非該当					
●あり ○なし			2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている			○非該当					
●あり ○なし			3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している			○非該当					
○あり ●なし			4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる			○非該当					
●あり ○なし			5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる			○非該当					
4			事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況			2/4		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			標準項目			標準項目			評点(○○●●)		
評価			標準項目			標準項目			標準項目		
●あり ○なし			1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている			○非該当					
●あり ○なし			2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している			○非該当					
○あり ●なし			3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている			○非該当					
○あり ●なし			4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している			○非該当					
<p>カテゴリ4の講評</p> <p>想定されるリスクに対し実践的なシュミレーションの下で定期的な訓練が期待される</p> <p>事業所が提供するサービスは短時間の通所型サービスであり、感染症および災害発生時の事業継続計画が策定され、サービス提供時間帯に発生した災害や緊急時対応ではスタッフの体制により、手厚い対応が期待できる。今後は、想定されるリスクをより具体的にし、ノロウィルス蔓延期の吐物処理の方法や大規模災害時の避難経路の実見、帰宅困難時の対応など、実践に近いシュミレーション訓練の実施、利用者の障害や特性に合わせてスムーズな対応ができるよう、日常の中で利用者も含めた訓練を定期的に行うなどリスクに備える取り組みも期待される。</p> <p>個人情報保護法の趣旨を踏まえ、規程・体制の整備が期待される</p> <p>個人情報の収集にあたっては、利用契約時に使用目的について説明した上で同意を得ている。管理についても、個人ファイルは鍵付きの書庫で保管され、パソコン等で管理するデータ情報に関してはサーバーを経由してアクセス権限を設定するなどセキュリティ対策や管理体制について対策がなされている。しかしながら、規定や個人情報の開示に関するルール等が明確にはされておらず、ルールが一定化されていない。今後は、個人情報保護法の趣旨を踏まえ、一定のルールを定めるとともに取り扱いについて職員が共通の対応が取れるように対策構築が期待される。</p>											

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 9/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		
評点(〇●)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
○あり ●なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		
評点(〇〇●●)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
○あり ●なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
○あり ●なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

3/3

評価項目1
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に
取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-5の講評

療育に関係する資格と経験を有する専門職を中心に職員集団を構成している

職員採用においては療育に関係する資格を有する経験者を優先し、児童指導員、保育士に加えて理学療法士や作業療法士、公認心理士等の専門職で職員集団を構成している。今年度、児童発達支援管理責任者(以下、児発管)の退職が続いたため、現在は管理者を兼務する常勤の児発管の他に非常勤の児発管を1名配置している。職員間の連携関係については職員の自己評価においても見方が少し分かれており、今後、専門職同士がそれぞれの専門性を尊重し相互に高め合いながら、質の高い療育を安定的に提供し続けるための体制を構築していくことが期待される。

研修参加や専門職連携を積極的に行い、職員の意欲と専門性の向上に取り組んでいる

職種別の役割要件(期待水準)を段階的に設定し、レベルごとの職種手当の金額と併せて、職員に一覧表を明示している。賞与の原資とその配分方法も職員に説明し、モチベーションの向上につなげている。また、外部研修の費用負担や時間的な保障等により職員に積極的な受講を促すとともに、会議等を通じて研修での学びの共有を図っている。法人内の4つの障害児通所支援事業所間で専門職同士の意見交換の取り組みが部分的に始まっており、今後、法人全体のケース検討の機会やスーパーバイズの取り組みにつなげていくことが期待される。

職員の確保と定着を図るための労働環境や福利厚生整備に取り組んでいる

正規職員は一日6時間の勤務を基本とし、月の所定外労働時間が10時間以内となるように管理するとともに、報酬請求業務を外注するなど、職員が療育に専念できるように配慮している。また、職員のダブルワークを認めるなど、柔軟な働き方を可能としている。さらに、連続休暇の取得や土日祝日手当の創設、宿舍借り上げ制度の導入など、職員の確保と定着を図るための労働環境や福利厚生整備に取り組んでいる。法人全体の職員の行動指針等を明示しており、今後、職員集団が問題を乗り越えるうえでの共通の価値観として浸透を図ることが期待される。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

当事業所は開設以来、「運動学習支援教室」として、主に運動に苦手意識を持つ就学前の児童及び学齢児を対象に運動療育を軸に据えた療育事業を展開してきた。一日の利用定員を10名とし、平日は14時から18時の間に1クラス2～3人の子どもに対する療育を4コマ(1コマは休憩・入れ替えの時間を含め1時間)、土日は10時から15時または16時の間に1クラス2～4人の子どもに対する療育を3～4コマの単位でサービスを提供している。保育士、児相指導員に加えて、理学療法士や作業療法士の資格と経験を有する職員を積極的に採用し、専門性の高い職員集団の形成に取り組んできた。今年度からの報酬改定に向けて、少人数クラス・短時間という従前の枠組みを基本的に維持しながら、質の高い専門的支援の実施を追求していく方針を定め、そのための準備を進めてきた。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

今年度より改定された国のガイドラインが示す本人支援の5領域をカバーした個別支援計画に加え、常勤の理学療法士が中心となって子どもの運動機能を個別にアセスメントし、それを基に専門的な支援の実施計画の作成を始めている。すでに保護者に説明のうえ、同意を得て、計画を踏まえた療育を開始している。感情のコントロールや集中力の持続と運動機能の統合の間には因果関係があるとの研究成果に基づき、子ども一人ひとりに応じた運動プログラムを通して、自己肯定感やコミュニケーションスキル等の向上を目指している。今後の組織的な実践を通じて、子どもの発達における波及効果を明らかにしていくことが期待される。

<p>評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>以前より児童発達支援管理責任者(以下、児発管)が管理者を兼ねる体制が組まれていた。それぞれの事情があるものの、児発管の退職が続き、その定着が課題となっていたため、児発管の業務負担を減らす目的もあって、月々の勤務表の作成業務のマニュアルを作成して一般職員に割り振ったり、報酬請求業務を外注する等の対策を講じた。</p>	
<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>今年度に入ってから児発管の退職があり、現在は管理者を兼務する常勤の児発管の他に非常勤の児発管を1名配置して不測の事態に備えるとともに、業務の引き継ぎをおこなっている。専門職同士がそれぞれの専門性を尊重し相互に高め合いながら、質の高い療育を安定的に提供し続けるための体制を構築していくうえでも、扇の要に位置する児発管の役割は非常に重要であり、外部研修の受講機会を増やすなどして育成を図っている。また、法人内の4つの障害児通所支援事業所の児発管と法人代表者の間で定期的にオンラインによる会議を開き、各事業所の現況報告や問題点の洗い出し等をおこなっている。</p>	

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>新規利用に関して、運営法人のホームページを経由しての問い合わせが多くなっている 利用希望者からの問い合わせで最も多いのは運営法人のホームページ(以下、HP)を経由したルートとなっている。HPには当法人の運営理念と療育の中心である運動療法の目的等を案内している他、対象となる子どもの生活上のつまずきや行動、傾向等を具体的に例示している。HPの問い合わせフォームから質問を個別に受け付け、管理者が対応している。今後、事業所の利用定員やサービス提供エリア・提供時間等の基本情報と併せ、受給者証の取得方法を含む利用に必要な手続き等を掲載することで、新規利用者の利便性をより一層高めることが期待される。</p> <p>市内の障害児通所施設を紹介する市の冊子に事業所の情報を掲載している 地元自治体が市内の障害児・者通所施設を紹介する冊子を作成し、市のホームページから自由に閲覧できるようにしている。当事業所も所定の様式でサービスの特徴等を掲載している。一方、市の子育て応援サイトにおける児童発達支援事業所の紹介ページには、運営法人の他の事業所の情報のみが掲載されており、確認と対応が望まれる。その他、事業所が主催する健常児と障害児が一緒にスポーツを楽しむイベントのチラシを作成し、関係者に配付している。事業所の状況から、今後は市内の保育園や幼稚園、相談支援事業所等に対する情報提供が期待される。</p> <p>見学や体験利用の申し込みを随時受け付け、子どもの状況等を踏まえて対応している 利用希望者の見学や体験利用の申し込みは随時受け付けており、児童発達支援管理責任者(以下、児発管)を兼務する管理者が保護者から子どもの状況等を聞き取ったうえで、その子どもの支援ニーズに近いと思われるクラスでの体験を案内している。児童発達支援ではクラスの定員が少なく、通所している子どもへの影響等を踏まえて、体験利用の受け入れを一枠につき1名までとしている。希望のクラスに空きが生じた時点で保護者に連絡し、改めて利用の意思を確認している。</p>		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	7/7
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>利用の開始にあたり、利用契約書類に沿って保護者に対し重要事項を個別に説明している</p> <p>利用の開始にあたり、児発管が利用契約書及び重要事項説明書の内容を保護者に個別に説明し、同意を受けたうえで、双方が署名・捺印をした書面を取り交わしている。また、契約書別紙において、それぞれ受給者証に記載された支給量の範囲内で利用する曜日や時間帯を定め、途中で変更があればその都度、保護者の同意のもとで差し替えをおこなっている。その他、保護者が療育の様子を窓越しに見学するために設けられたスペースに、児童発達支援・放課後等デイサービスの利用における注意点等をまとめた文書を掲示している。</p> <p>利用契約時の面談を通じて子どもの療育に必要な情報等を所定のシートに集約している</p> <p>利用契約を結ぶ段階で、子どもの療育に必要な情報を保護者に所定の様式に記入してもらい、提出を受けている。その書面には医療面の情報や興味・関心、主なコミュニケーションの手段、身辺自立の状況等の他、療育に対する子ども及び保護者の希望を記載する欄が設けられている。子どもの個別の状況及び保護者の希望を踏まえ、面談での話し合いを通じて、利用クラスを決定している。今後、保護者の了解のもとで、子どもが通う保育所や幼稚園、小・中学校等の関係機関から必要に応じて子どもの情報を入手し、療育の参考とする取り組みの検討が期待される。</p> <p>初めて通所する子どもの不安の軽減や移行先での支援の継続性に配慮した取り組みがある</p> <p>新規利用の子どもを受け入れる際、「始まりの会」で他の子どもに紹介するとともに、その日にどんな活動をするのかをいねいに説明し、初めての子どもが見通しを持って参加できるように配慮している。また、あらかじめ保護者より入手した情報をもとに、子どもが好きな遊びを用意したり、初めての子どもが安心して活動に参加できるよう、状況に応じて保護者にも子どもと一緒に療育室に入ってもらう場合もある。サービス終了時は支援の継続性の観点から、保護者や相談支援事業所等の関係機関からの求めに応じて療育の経過等の情報を提供している。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	11/11
3	個別状況に応じた計画策定・記録		
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		○非該当
評価項目2 子どもや保護者の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画は、子どもや保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 計画を子どもや保護者にわかりやすく説明し、同意を得ている		○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直している		○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している		○非該当
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している		○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している		○非該当
サブカテゴリ-3の講評			
職員間で子どもの情報を共有、検討し、保護者面談を経て個別支援計画を作成している 保護者が所定のフェイスシートに記入した子どもの基本情報を利用契約時の個別面談時に確認しながら児発管が必要な内容を追記し、職員間で共有、検討している。個別支援計画の作成にあたり、初回はフェイスシートから、更新時は療育を通じた子どもの変化や保護者との面談から把握した要望等を踏まえて支援ニーズを抽出のうえ、本人支援の5領域をカバーした原案を作成して保護者に説明し、同意を得ている。支援の目標期間は通常は6か月を目安としているが、子どもの状況の変化等を踏まえて保護者と面談のうえ、必要に応じて見直しをおこなっている。			
子どもの運動機能を個別にアセスメントし、専門的な支援の実施計画を作成している 当法人は開設以来、「運動療育」を軸に据えており、今年度より改定された国のガイドラインが示す本人支援の5領域の中でも「運動・感覚」に力点を置いた療育を展開している。当事業所では、常勤の理学療法士が中心となって子どもの運動機能を個別にアセスメントし、それを基に専門的な支援の実施計画の作成を始めている。すでに保護者に説明のうえ、同意を得て、計画を踏まえた療育を開始しており、今後の組織的な実践を通じて子どもの発達における波及効果を明らかにしていくことが期待される。			

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要が生じた場合には、子どもや保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 日常の支援の中で、子どものプライバシーに配慮した支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(子どもが「ノー」と言える機会を設けている)		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 施設内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している		○非該当
サブカテゴリ-5の講評			
<p>個人情報の使用目的等について同意を得ている他、プライバシーの保護に努めている 利用者から預かった個人情報及び肖像権について、使用の目的や条件等を保護者に書面で明示し、同意の意思確認をおこなっている。保護者との個別面談等の際には、専用の独立した相談室を使用し、プライバシーの保護に努めている。また、子ども同士が同じ保育所や幼稚園、小・中学校等に通っているなど顔見知りの関係にある場合は、保護者の気持ちを踏まえて、曜日や時間帯が異なるクラスに振り分けている。</p> <p>子どもが苦手意識を克服し、自己肯定感を高めることを療育の基本方針に掲げている 子どもの苦手意識を克服し、自己肯定感を高めることを療育の基本的な方針に掲げている。2~4人の小集団を対象に、鬼ごっこやかくれんぼ、マット・跳び箱・鉄棒・バランスブロック等の用具を使ったサーキットやボール遊びなどの粗大運動を中心としたプログラムを通じて、子どもが楽しみながら体の使い方を覚えたり、ルールのある遊びを楽しめるように工夫している。その日の「始まりの会」で、子どもからの提案をもとに遊びのメニューを変更することもある。職員は子どもの意見表出や子ども間の意見調整も重要な支援機会として捉えている。</p> <p>子どもの自尊心や羞恥心に配慮し、課題や年齢等を踏まえた対応をおこなっている 通常の発達段階に沿った身辺自立や発音・発語、協調運動等に課題がある子どもが集団の中で自尊心を傷つけることのないように、マンツーマンに近い体制で職員がフォローしている。また、職員が子どもを呼ぶ際は、未就学児の場合は名前に「くん」「さん」「ちゃん」、学齢児に対しては「さん」を付けることを職員間で申し合わせている。その他、女兒に対する排泄や衣類の着脱等の支援は同性の職員による介助を原則としている。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(○○○)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(○●)	
評価	標準項目		
○あり ●なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映している	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>日常業務及び緊急時の対応マニュアルを整備し、職員間の共有化を図っている</p> <p>新入社員に対する研修資料に事業や療育、発達障害に関する一般的な説明の他、事業所としての職員の行動規範や療育の目的、一日の活動の流れと目的等を掲載している。また、利用者からの相談・苦情対応や子どもに対する虐待の疑いを発見した場合の組織対応に関するマニュアルの他、事故や感染症、自然災害、火災、不審者等が発生した場合の対応についてのマニュアルを整備し、ファイルに綴じて事務室内の書庫に保管している。虐待対応については、外部研修に参加した職員による伝達研修を実施し、全体共有を図っている。</p> <p>マニュアルの定期的な見直し等を通じて業務の標準化を進める取り組みが期待される</p> <p>その日の療育の前後に職員ミーティングを行い、活動の確認や振り返り、出席児童の様子と個別支援計画に基づく目標の達成状況等を確認している。その中で、子どもに対する職員の不適切な対応等があれば確認し合い、是正に向けて療育の基本方針の確認等をおこなっている。今回実施した利用者調査では、職員の退職にともなう入れ替わりに対する不安の声が一部の保護者から寄せられており、職員ミーティングでの検討を通じて問題点の把握を行うとともに、マニュアルの定期的な見直し等を通じて、業務の標準化に向けた取り組みを進めることが望まれる。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	18/20
1	評価項目1 個別の支援計画に基づいて子ども一人ひとりの発達の状態に応じた支援を行っている	評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 個別の支援計画に基づいた支援を行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している	○非該当
	●あり ○なし	3. 関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって、支援を行っている	○非該当
評価項目1の講評			
<p>個別支援計画書及び専門的支援実施計画書に基づいて支援をおこなっている 保護者が記入したフェイスシートにより、本人の興味関心や社会性等を把握すると共に、半年毎の児童発達支援管理責任者(以下、児発管)との個別面談において、本人および保護者の希望を確認し、児発管と指導員全員で検討・作成した個別支援計画に基づいて支援をおこなっている。また、今年度より理学療法士もしくは作業療法士によるアセスメント評価に基づく専門的支援実施計画書の作成を開始した。運動・感覚機能の向上に関する具体的な支援の内容や方法を保護者に説明し同意を得たうえで、実施している。</p> <p>個別の運動プログラムを通して、コミュニケーションスキル等の向上を目指している その日の活動前に、出勤職員全員が参加するミーティングを行い、理学療法士等の専門職が、当日のプログラムの中で子どもの何を確認し、どこに着目すべきかというポイントを解説・共有している。子どもの特性に応じて、活動を絵カードで示す等、視覚に訴えるコミュニケーションツールを用いている。感情のコントロールや集中力の持続と運動機能の統合の間には因果関係があるとの研究成果に基づき、子ども一人ひとりに応じた運動プログラムを通して、コミュニケーションスキル等の向上を目指している。</p> <p>子どもの特性や保護者の要望に応じて、関係機関と連携して支援している ケースに応じて教育機関や福祉の関係機関、医療機関等と連携して支援している。送迎サービスを実施していないので、日常的に学校等と情報を共有する機会はないが、保護者から子どもの主な所属先での様子等について情報の提供を受けている。保護者から要望があった場合は、相談支援専門員を通じて特別支援学級と連携したり、放課後等デイサービスの利用者の進学時には、移行支援をおこなっている。地元自治体の子ども発達センターの公開療育や研修には、常勤職員が積極的に参加して、日ごろから連携がとりやすいようにしている。</p>			

2 評価項目2		この評価項目は入力できません	
【食事の支援がある事業所のみ】子どもが食事を楽しめるよう支援を行っている		評点()	
評価	標準項目		
○あり ○なし	1. 食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている	○非該当	
○あり ○なし	2. 子どもの状態やペースに合った食事となるよう、必要な支援(見守り、声かけ、食の形態や用具の工夫等)を行っている	○非該当	
○あり ○なし	3. 子どもが安全に食事をとれるよう取り組みを行っている	○非該当	
○あり ○なし	4. 食物アレルギーや疾患等については、医師の指示に従い、対応している	○非該当	
○あり ○なし	5. 食についての関心を深めるための取り組みを行っている	○非該当	
○あり ○なし	6. 子どもの状況をふまえ家庭での食事について助言を行っている	○非該当	
評価項目2の講評		この評価項目は入力できません	

3 評価項目3 子ども一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 身の回りのことは自分で行えるよう、必要な支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 基本的な生活習慣や社会生活上のルール等（あいさつ、マナー、交通ルール等）を身につけられるよう支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 集団活動を取り入れるなど、子どもの心身の発達や社会性が育つよう支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	4. 一人ひとりの有する能力を活かせるよう個別のプログラムを実施している		○非該当
●あり ○なし	5. 送迎は、子どもと保護者等の状況に応じて送迎方法を検討し、行っている		○非該当
評価項目3の講評			
<p>子どもが見通しを持って活動できるよう、毎回同じ手順・時間配分で活動している</p> <p>身の回りのことは自分でおこなえるよう、出入り口付近等に支度の手順を絵で示している。子どもが安心して活動できるよう、最初に10分程度の自由に遊ぶ時間を設け、その後はじまりの会をおこなって出席者や活動内容を確認してから約45分間、3～4種目の運動をおこなうとしている。毎回決まった時間・手順で活動をおこなうことで、子どもが見通しを持って活動に参加できるようにしている。その日の出席人数や子どもの状態等に応じて、指導員と一対一でおこなう活動と集団でおこなう活動のバランスを決めて支援している。</p> <p>無理なく活動に入れるよう、子どもの状況に応じて支援を組み立てている</p> <p>活動は専門職員がリードし、他の職員は子どもに寄り添う、もしくは、人数によっては子ども役を担う。各運動は、まずリード役が手本を見せて、子どもはそれを模倣する。体がうまく動かなくても、できたことや前より上手くなった点等を褒めて、子どもが楽しんで活動できるように支援している。集団での活動が難しい子どもの場合、保護者からの要望に応じて、絵本を読み聞かせてから、子どもの好きな運動を取り入れた活動をしたり、スムーズに集団活動に入れるクラスの場合は、基本動作の向上からルール遊びに発展させる等、クラス毎に工夫している。</p> <p>基本的に送迎は保護者がおこない、一部の高学年の子どもは一人で通所している</p> <p>事業所の車両等による子どもの送迎はおこなっておらず、今後も実施の予定はない。基本的に子どもは保護者に付き添われて来所し、ほとんどの保護者は、活動中は別室から活動の様子を観察している。活動終了後、保護者は指導員からフィードバックを受けて、子どもと共に帰っていく。放課後等デイサービスを利用している高学年の子ども数名は一人で通っているため、帰宅時の安全確保のために、SNSで保護者に「今出ました」と伝えると共に、本日の活動内容も共有している。</p>			
4 評価項目4 子どもの健康を維持するための支援を行っている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの健康状態について、保護者や医療機関等から必要な情報を収集している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの状態に応じた健康管理を行い、体調変化に速やかに対応できる体制を整えている		○非該当
評価項目4の講評			
<p>フェイスシートで子どもの健康状況を確認し、必要に応じて内容を更新している</p> <p>子どもが来所した際は、子どもの状態を確認し、いつもと違う様子やケガを発見したり、感染症に罹患したりした場合は、その経過を保護者に確認している。基本的な健康状態については、利用開始時に保護者が記入・提出するフェイスシートにおいて、利用している医療機関や診断名、服用している薬、既往歴、体調が悪い時のサイン等を確認している。更新が必要な情報が保護者からもたらされた際や、面談時の確認により、必要に応じて服薬名等をフェイスシートに記入してもらっている。</p> <p>子どもの健康状態の確認ポイントと対応について、手順や方法を定めることが望まれる</p> <p>子どもは来所するとまず、手洗いとうがいをするようになっていく。感染症の流行期には、検温表への記入を求めている。コロナ禍が一段落してからも、指導員はマスクを着用している。毎回の活動終了時には、使用した用具を消毒シートでふき取って、清潔を保持している。一方、子どもの体調を確認するポイントや発熱時の対応等について、現在、事業所として手順等を決めていない。今後、手順書等としてまとめ、全指導員で共有することが望まれる。</p>			

5 評価項目5 子どもの主体性を尊重し、施設での生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常生活の支援は子どもの主体性を尊重して行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの状況や希望に沿って、多様な体験ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 【放課後等デイサービス】 子どもの状況に応じて利用日や利用時間を設定している	○非該当
評価項目5の講評		
<p>子ども自身が考えて、やりたいこと、やれそうなことを選択できるよう支援している</p> <p>児童発達支援、放課後等デイサービスの両方とも、運動療育を中心に据えた運動学習支援教室である。土日も含めて7曜日営業し、毎日2～5人程度の小集団のクラスを1時間単位で4クラス運営している。各クラスのプログラムは事前に決めて、その日のミーティングで指導員間で共有しているが、子どもの様子等に応じて柔軟に対応している。例えば、あるプログラムをやりたくない子どもがいた場合、他の選択肢や時間の短縮を提案したり、活動の意義をかみ砕いて説明するなど、子ども自身が考えて選択できるように支援している。</p> <p>子どもの安全を配慮した空間で、子どもたちは思い切り体を動かしている</p> <p>子どもが安心して活動できるよう、床張りの運動スペースを広く取り、運動器具は整頓して棚に収納している。はじまりの会で使用するホワイトボードは、使う時だけ控室から出している。運動の種類によりマットを敷いて身体的な安全を確保したり、視覚に訴えるカード等を用いて運動内容を提示する等して、よりわかりやすく楽しく活動できるように工夫している。土日の各1枠に、近隣会場で課外活動としておこなうフットサルでは、チームスポーツの楽しさを体験できるようにしている。</p> <p>子どもの状況や希望に沿って、多様な経験ができるようにしている</p> <p>活動始めの約10分間は、子どもが指導員と一緒に遊べる余暇活動の時間としている。大型用具を使用する場合は、完全確保のため必ず指導員がつくが、運動器具を収納している棚の上部は子どもの手が届かないため、用具の管理は指導員がおこなう等、ルールの徹底が必要である。必要に応じて、保護者に運動プログラムが与える日常動作への効果を伝えている。学校行事等で活動を欠席した場合は、別日での振替を提案している。なお、保護者が子どもの活動の様子を療育室の外側から観察する窓が見にくいという声が見られるため、今後の検討が望まれる。</p>		
6 評価項目6 家族との交流・連携を図り支援を行っている		評点(〇〇〇●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どものサービス提供時の様子や家庭での普段の様子を家族と情報交換し、支援に活かしている	○非該当
●あり ○なし	2. 家族の意見や要望を活かした支援を行っている	○非該当
○あり ●なし	3. 家族の状況に配慮し、相談対応や支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもや家族に合った療育方法等について助言している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>家族の意見や要望を活かした支援をおこなっている</p> <p>利用者アンケートにおいては、児童発達支援利用者向けの問い「通所が子どもの身体機能や健康状態に良い影響を与えているか」、放課後等デイサービス利用者向け問い「活動や遊びはおもしろいか」には、いずれも95%以上の利用者が「はい」と答えている。児童発達支援に通う利用者の保護者からの要望により、保育園の運動会の種目の一部を療育内容に取り入れたことで、本番でその種目に取り組むことができたという事例もある。子どもが主体的に楽しく運動に取り組めるよう、支援している。</p> <p>家族との面談は、原則として個別支援計画の更新のタイミングでおこなっている</p> <p>家族との面談は、個別支援計画の更新のタイミングで半年に1回おこなっている。そのほかに、保護者からの希望に応じて児発管と、相談の内容に応じて理学療法士や心理士等の専門職が面談をおこなっている。必要に応じて、その後も定期的に面談したり、相談支援センター等の相談先を紹介している。その一方で、児童発達支援利用者に対するアンケートの「家族に対する精神的なサポートは役に立っているか」の問いに対して「はい」と回答した保護者は、約半数に留まっている。今後は積極的に、子育てに関する悩みや進路等の相談に応じることが望まれる。</p> <p>通所する子どもへの支援のみならず、家族支援の視点も加えることが望まれる</p> <p>高学年の一部の子どもを除いては、子どもは家族の送迎で通所しているので、保護者は、活動の前後に指導員と情報を共有できる。活動時間の終盤には、補佐で入っている指導員が、サービス提供記録にその日の活動内容や子どもの様子等を記し、それを基に保護者と情報を共有するようにしているが、1時間枠の中に子どもと保護者の入れ替え時間を含んでいることもあり、利用者アンケートにおいては、もう少し指導員と話す時間が欲しいという声も聞かれる。支援の組み立ての中に、家族支援の視点も加えることが望まれる。</p>		

7 評価項目7		地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(○●)・非該当1	
評価		標準項目			
○あり ●なし		1. 地域の情報を収集し、子どもの状況に応じて提供している		○非該当	
●あり ○なし		2. 必要に応じて、子どもが地域の資源を利用し、多様な体験や交流ができるよう支援を行っている		○非該当	
○あり ○なし		3. 【児童発達支援センター】 地域全体の在宅障害児や関係機関等を対象に、施設・設備や人材・プログラムを有効に活用した支援を実施している		●非該当	
評価項目7の講評					
<p>専門職の知見を活かした運動療育に特化した事業所の強みを活かした地域貢献が望まれる</p> <p>地域の情報としては、移行支援の一環として、近隣の小学校の特別支援学級の有無等を把握して、必要に応じて保護者に情報を提供できるようにしている。地域交流としては、近隣の戸外運動場を確保して、同法人の他教室の子ども、きょうだい、友人も含めた交流イベントを年1回実施し、おにごっこやボール取り、ミニサッカー等を楽しんでいる。今後は、このような機会を増やしたり、年齢・学年、興味関心等で分類して、より参加しやすい環境を設定して実施する意向である。専門職員の知見や経験等を活かした地域貢献プログラムの検討・実施が望まれる。</p>					

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル①	災害時の避難場所の提供やイベント開催を通じて、地域福祉に貢献する取り組みがある	
内容①	事業所では、サービス提供時間内でのボランティアや実習生の受け入れについては事業の運営形態や提供方法を鑑みると難しいと考えている。その一方、地元自治体より二次避難所としての指定を受け、災害時に障害を持つ児童が安心して待機できるように事業所を活用したり、健常児と障害児と一緒にスポーツを楽しむイベントを年1回開催するなど、地域貢献への取り組みを進めている。事業所の有する機能や専門性を活かしながら地域の福祉に貢献する取り組みとして評価できる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル②	日々の活動前後のミーティングで子ども一人一人の状況等を職員間で共有している	
内容②	一日の活動終了後の職員ミーティングで子ども一人一人の様子を振り返り、個別の支援目標に対してできたこと、気付いたこと等を所定のシートに入力している。そして、次回の活動前のミーティングで、その内容を職員同士で読み上げ、必要に応じて前回対応した職員からの補足説明を受けて、子どもの状態や目標達成の状況等の共有を図るとともに、その日の活動に活かしている。個別支援計画のモニタリングが日々のミーティングの中で行われており、それによって療育に携わる職員全員が子どもの個別の目標を踏まえた支援を行う体制が整えられている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子ども一人ひとりに応じた運動プログラムを通して、子どものウェルビーイングの向上につながる発達支援を目指している
	内容	今年度より改定された国のガイドラインが示す本人支援の5領域をカバーした個別支援計画に加え、常勤の理学療法士が中心となって子どもの運動機能を個別にアセスメントし、それを基に専門的な支援の実施計画の作成を始めている。すでに保護者に説明のうえ、同意を得て、計画を踏まえた療育を開始している。感情のコントロールや集中力の持続と運動機能の統合の間には因果関係があるとの研究成果に基づき、子ども一人ひとりに応じた運動プログラムを通して、子どものウェルビーイングの向上につながる発達支援を目指している。
2	タイトル	療育に携わる職員全員が子どもの個別の目標を踏まえた支援を行う体制を整えている
	内容	一日の活動終了後の職員ミーティングで子ども一人一人の様子を振り返り、個別の支援目標に対してできたこと、気付いたこと等を所定のシートに入力している。そして、次回の活動前のミーティングで、その内容を職員同士で読み上げ、必要に応じて前回対応した職員からの補足説明を受けて、子どもの状態や目標達成の状況等の共有を図るとともに、その日の活動に活かしている。個別支援計画のモニタリングが日々のミーティングの中で行われており、それによって療育に携わる職員全員が子どもの個別の目標を踏まえた支援を行う体制が整えられている。
3	タイトル	子どもの苦手意識を克服し、自己肯定感を高めることを目指して、子ども自身が主体的に楽しめるプログラムを工夫している
	内容	子どもの苦手意識を克服し、自己肯定感を高めることを療育の基本的な方針に掲げている。2～4人の小集団を対象に、粗大運動を中心としたプログラムを通じて、子どもが楽しみながら体の使い方を覚えたり、ルールのある遊びを楽しめるように工夫している。身辺自立や発音・発語、協調運動等に課題がある子どもが集団の中で自尊心を傷つけることのないように、マンツーマンに近い体制で職員がフォローしている。また、子どもの意見表出や子ども間の意見調整も重要な支援機会と捉え、子どもからの提案をもとに遊びのメニューを変更することもある。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員一人一人の意向を踏まえたキャリアアップと専門性の向上を組織としてバックアップする仕組みの検討が期待される
	内容	自己啓発を職員研修の基本に据えるとともに、外部研修の受講について様々な便宜を図っている。今後、職員一人一人のキャリアアップに向けた意向を把握するとともに、成長に向けた課題を育成責任者と共有し、組織として支援していく仕組みの検討が期待される。また、都内に4か所の障害児多機能型事業所を展開する法人全体で専門職同士のノウハウの共有やスキルアップを図るとともに、合同のケース検討の機会やスーパーバイズの取り組みに向けた検討を進めることが期待される。
2	タイトル	中長期目標の実現に向けた事業計画を期間に応じて展開するとともに、実施状況の評価を計画の見直しにつなげるサイクルの確立が望まれる
	内容	今年度は報酬改定によるサービス内容の見直しや新たな加算取得に向けた人員体制の整備、業務ソフトの導入などの経営方針と各事業所の数値目標が掲げられている。今後、国が定めるガイドラインに示された障害児支援の基本理念等も踏まえながら、事業の安定的な継続を図るうえで重要となる中長期的な目標を設定し、その実現に向けた計画を作成するとともに、それを単年度の事業計画に展開し、その実施状況の評価を基となる計画の見直しにつなげるサイクルを確立することが望まれる。
3	タイトル	家族支援や地域連携を進めるための職員の相談援助技術の向上とソーシャルワークの体制づくりが期待される
	内容	国の示すガイドラインに示された事業所の役割のうち、子どもの発達の基盤となる家族(家庭)に対する支援に関して、現在は日々の療育終了後のフィードバックの際の相談援助が中心となっている。ソーシャルワークの資格を有する職員を配置しているものの、職員全体の相談援助技術の向上を目指す組織的な取り組みについては緒についておらず、今後の検討が期待される。また、家族支援は地域の関係機関との連携を通じて展開される面もあり、地域支援・地域連携に向けた体制づくりも並行して進めていくことが望まれる。